



本康歯科ニュース

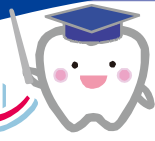


世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院をめざして！

「口腔内細菌」4種の大腸がんへの関与を世界に先駆けて証明

口腔内細菌が虫歯や歯周病の原因であることは知られている。近年、その口腔内細菌が腸に移行して腸内細菌叢を形成し、さらに特定の口腔内細菌は大腸がん発症と進行にも関与しているのが大腸がん患者と健常者の唾液と便から採取した細菌の遺伝子配列分析で証明された。口腔内細菌は300~700種といわれ、その数はよく歯を磨く人で1000~2000億個、あまり歯を磨かない人では4000~6000億個と推計。その一部が虫歯や歯周病の原因となるが、それ以外に全身の疾病にも、影響している可能性が出てきた。以前から、口腔内細菌が腸に移行して腸内細菌になるのでは、という考えはあった。20年前より、細菌の遺伝子解析が進歩し、遺伝子配列の比較も可能となったので、口腔内細菌と腸内細菌の遺伝子配列を比較されたところ、口腔と腸内に同じ遺伝子配列を持つ細菌を発見。その結果、口腔から大腸に細菌が供給されていることを証明。大腸がん患者と健常者から唾液と便を採取し、細菌の遺伝子の比較分析を試みた結果、大腸がん患者の唾液と便に共通して存在する特異的な口腔常在菌を4種発見。これらの口腔内細菌が腸に移行して大腸がん（直腸・結腸がん）の発生や進行に関わる可能性があることもわかったのだ。この4種の細菌（S.koreensis、S.anginosus、S.moorei、P.stomatis）は大腸がん患者の唾液と便の両方に大量に存在。これらは口腔に常在する細菌であるにもかかわらず、便にも高い量で存在しており、まずは口腔から移行した可能性が示唆され、中でもS.mooreiは早期患者に比べ、進行大腸がん患者に多量に存在していたため、がんの発症だけでなく、進行にも関与している可能性がある、と判明。見つかった4種の口腔内細菌は直接、大腸がんを発生させたり、進展させるのではなく、発がんさせる腸内細菌叢を作り出す働きをしている、と考えられる。悪玉菌が活動するためには周囲に複数の特定の菌が必要で、細菌叢のバランスが崩れることにより、悪さを始めます。予防のためにも、大腸がんと関連する細菌を腸に定着させないよう日常の口腔ケアと定期的に歯科で管理が大切。

歯にまつわる 日本語アレコレ



このコーナーでは、“歯”にまつわる慣用語や熟語、
ことわざなどの意味や由来などををご紹介します。

「奥歯に剣」

皆さんは「奥歯に剣」ということわざをご存じですか？ このことわざは「奥歯に剣が刺さったらすごく痛い…」という話ではなく、剣を奥歯に隠すように「敵意のある相手に対して、本心を表に出さない」という意味があります。使い方としては、「仕事だからと割り切つて、奥歯に剣のごとく笑顔で対応した」のように、自分の感情を押し殺す気持ちを表現するのにぴったりの言い回しです。似たような言葉には「笑みの中の刀」「口に蜜あり腹に剣あり」「真綿に針を包む」などがあり、人間の表裏を表す言葉は意外と多いようですね。

